

下伊那エリア

飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、
下條村、売木村、天龍村、泰森村、喬木村、豊丘村、大鹿村
お問い合わせ先 南信州地域振興局農地整備課 ☎0265-53-0417

1 いがらい 伊賀良井



【所 在】飯田市
【築 造】室町時代
【管理者】北十区財産区

中央アルプスを源とする一級河川松川から取水している伊賀良井の起源は古く、室町時代には既に存在していたともいわれています。飯田藩時代には、用水管理の組織が確立されており、地元に着した井守(いもり)と呼ばれる役名は今も引き継がれています。平成14年から20年に行った改修事業では、玉石積みを採用し、生態系と景観に配慮した構造となっています。



2 きぎゅうばらい 帰牛原井



【所 在】喬木村
【築 造】明治3年(1870年)
【管理者】帰牛原井水組合

帰牛原地籍では、江戸時代初期から水量が豊富な加々須川からの取水を切望していましたが、下流の取水権者との調整が難しく、明治時代によりやく工事着手になりました。切り立った断崖絶壁の岩を人力で削って山腹水路を通し、岩盤をくり抜いてトンネルを造る、まさに命がけの難工事でした。明治3年、念願の帰牛原井が完成し、水田の面積が10倍に増えたといわれています。



5 りゅうとうい 竜東井



【所 在】豊丘村、喬木村
【築 造】昭和31年
【管理者】竜東井

旧河野村を受益地とする「間夫井(まぶい)」と旧神福村、喬木村を受益地とする「竜東一貫水路」を統合して整備されたのが始まりです。間夫井の歴史は古く、1677年に天竜川の取水口が築造され新田を潤しました。竜東一貫水路は旧河野村八王寺沖を取水口とし、昭和16年に整備されました。その後昭和28年に被災した両取水口は、昭和31年に移動・統合され竜東井として完成しました。



6 りゅうとういっかんすいろ 竜東一貫水路



【所 在】飯田市、松川町、喬木村、豊丘村
【築 造】昭和55年(1980年)
【管理者】長野県小渋川土地改良区

小渋川総合開発事業の一環として、昭和39年に県営かんがい排水事業が採択され、昭和55年に完成した水路は、天竜川左岸の農地を潤しています。トンネル21ヶ所、サイフォン4ヶ所、分水工32ヶ所、放水口5ヶ所を含む総延長16.8kmの水路の完成により、水の乏しかった竜東地域に畑地かんがい施設が整備され、農業の近代化が図られました。



3 あらい 新井



【所 在】飯田市
【築 造】平安時代
【管理者】新四区財産区

その起源は古く、平安時代には存在していたともいわれていますが、幾度も山崩れにより荒廃が進んでいました。江戸時代初期、山本長左衛門は飯田藩に新井の修復工事を願い出て聞き届けられ、わずか3日間で井形を掘り通したという記録があります。飯田藩時代には確立されていた井守(いもり)と呼ばれる責任者の役名は今も引き継がれ、現在は新四区財産区が新井の管理を行っています。



4 りゅうさいいっかんすいろ 竜西一貫水路



【所 在】飯田市、松川町、高森町
【築 造】昭和44年(1969年)
【管理者】長野県竜西土地改良区

駒ヶ根市にある吉瀬ダムから取水し、中川村で発電している南向発電所の放水路の水を利用して、飯田市、松川町、高森町の天竜川右岸沿いの農地約700haを潤しています。昭和初期までは、天竜川から8ヶ所の取水口で取水していましたが、洪水のたびに流され莫大な費用と労力を費やしてきました。昭和23年からの国営事業を皮切りに大規模な改修が行われ、現在の姿となりました。



7 おおくぼさわいすい 大久保沢井水



【所 在】阿南町
【築 造】昭和23年(1948年)
【管理者】大久保沢井水組合

一級河川和知野川の支流大久保沢から取水し、隧道11箇所1.3km、水路0.4kmにより、早稲田、平久、和知野の50haの農地を潤しています。隧道11ヶ所のうち8ヶ所は手掘りで掘削され、水路は鉄管の水路橋や土管で造られています。戦後の物資が不足している中での工事であり、資材の調達に苦労したそうです。平成4年に完成記念碑が建立されました。



8 た たなだ 棚田百選 よこね田んぼの棚田



【所 在】飯田市 千代芋平・野池
【築 造】戦国～江戸時代
【保全団体】よこね田んぼ保全委員会ほか

戦国時代から江戸時代に水田開発された110枚からなる棚田で、面積の合計は3haです。四季折々に色を変える美しい景観は、「信州田園風景25選」や「日本の棚田百選」に認定されています。この貴重な棚田を後世まで残そうと「よこね田んぼ保全委員会」と「よこね田んぼ守り隊」を中心に保全活動を行っており、修学旅行など農作業体験の場としても親しまれています。

